

# はじめに

会計言語は、自然言語（母国語）、コンピューター言語と並んで「経営の3言語」と言われています（もちろん会計言語を学ぶのが簿記です）。

そしてみなさんは、最も若くして簿記に接した人たちです。

そんなみなさんが、全商簿記1級にとどまらず、日商簿記2級にまで挑む意味はどこにあるのでしょうか。

学習範囲からいくと、むしろ全商1級の方が広く、今後役に立つ良い内容が含まれていますし、問題そのものをみても日商2級には「これ、法令違反ちゃうか？」とか「こんなもん、何に使うねん！」と、ツッコミを入れたくなるような出題もみられ、むしろ全商1級の方が上質だと言えるでしょう。

それでも、私はみなさんに日商2級を、受験することをお勧めします。

それは、確かに全商簿記が「商業高校生しか受けない」試験なのに対して、日商簿記が「一般の社会人たちも受験する」試験だから『社会的な評価が高い』という面もあります。

しかしそれよりも『**せっかくこれまで学んできて、もう一歩進めば、社会的に認められる価値が手に入るという状況で、若いみなさん（の将来のために）に留まってほしくない!**』という強い思いがあるからです。

一歩、前に出て挑戦する、それは強い意志を要する大変なことです。

しかし、挑戦すること自体が尊い。

そして挑戦は常に「頭や心の成長」をもたらします。

みなさんがこの先の、混沌とした時代を生き抜いていくために最も重要なもの、それが『成長』です。

歴史上でも名を残しているのは、いざというときに一歩前に出た人だけです。

いまみなさんは、簿記については（自分）史上最強の自分になっていて、一番、ゴールの近くにいます。

道は作っておきました。さあ、進んでみてください。

いまの状況を打ち破り、自分も、そしていつの日にか周りの人たちも幸せにしていくために。

ネットスクール株式会社  
代表取締役社長 桑原知之

# 本書の特徴

このSectionの本質を一言で示しています

出題頻度を考慮し、内容としての重要度を示しています

- ★★★…合格に不可欠な内容
- ★★…知っておくべき内容
- ★…押さえておけばいい内容

簿記で大切な状況設定や、実社会との繋がりを「はじめに」で説明

Section 4 **満期保有目的債券** 重要度 ★★★

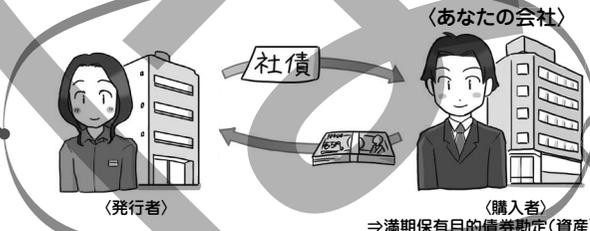
5年で5円もらえるなら、1年で1円もらったことにしようね!

はじめに  
債券の購入を検討するとき、利息の他に「利回り」が表示されていることに気がきます。この利回りというのは、ここで学ぶ償却原価法による有価証券利息まで含めた実質の金利です。

1 満期保有目的債券

満期保有目的債券とは利息と元本を受け取る目的で満期まで長期にわたって債券を保有するものです<sup>(01)</sup>。

イラストを見て状況を理解できるようにしました



(01) 「満期まで長期にわたり保有」という点がポイントです。社債であっても、短期的な売買を目的として購入すれば売買目的有価証券勘定で処理することになります。

(02) 貸借対照表上は投資有価証券として固定資産の部に表示されます。

仕訳も時系列でわかりやすく説明  
※単発ではわかりにくく、覚えるハメになります

2 満期保有目的債券の処理

満期保有目的債券に関わる処理では、(1)購入したとき、(2)利息を受取ったとき、(3)決算のとき、(4)満期(償還)のとき<sup>(01)</sup>、の4つの場面があります。

(01) 償還日=返済期日のことです。

とくに(3)の決算にさいしては、償却原価法という方法を用いて金額を算定するため、注意が必要です。

①取得	(借) 満期保有目的債券	××	(貸) 現金等	××
②利息の受取	(借) 現金等	×	(貸) 有価証券利息	×
③決算	(借) 満期保有目的債券	×	(貸) 有価証券利息	×
④満期償還	(借) 現金等	×××	(貸) 満期保有目的債券	×××

貸方は有価証券に関する利息として有価証券利息勘定を用います。なお、金額は「額面金額×利率」で計算します。

償却原価法を用いて、取得原価を徐々に額面金額に近づけていきます。

額面金額で償還されます。

言葉の説明は側注で

とにかく“わかりやすさ”と  
“知識の定着 (=実力アップ)” にこだわった本です！！

間違いやすいポイントもしっかり指摘！

設例でわかりやすく  
学べるようにしています

ちゃんと“理由”や“背景”を  
説明しています

「こんな場合はどうなるの？」  
という疑問にも側注で答えています

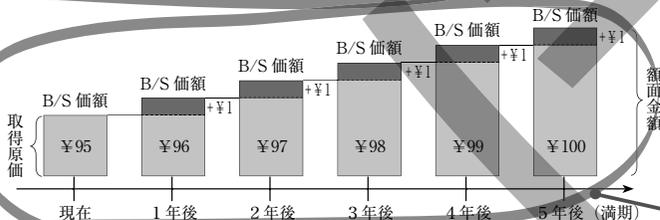
金額の動きも、  
わかりやすく可視化しています

### 3 償却原価法

満期保有目的債券は（原則として）取得原価を貸借対照表価額としますが、取得原価と額面金額が異なり、その差額が金利の調整と認められるとき<sup>01)</sup>は、償却原価法にもとづいて算出した価額（償却原価）をもって貸借対照表価額としなければなりません。

（例）取得原価 ¥95、額面金額 ¥100、満期までの期間が5年の社債を購入したとすると、その差額の¥5を、1年目には+¥1して ¥96、2年目にはさらに+¥1して ¥97と、每期、満期保有目的債券の取得原価に加算して額面金額に近づけていきます。そして、この ¥96、¥97等を償却原価といいます。なお、毎期の加減額<sup>02)</sup>は2級では定額法により算定し、有価証券利息として計上します。

01) ¥95で買って¥5の利息がついて¥100で償還されるため、実質的な利息は利札分と¥5を合わせたものとなります。このように額面と異なる価額で取得することにより利息（金利）が調整されている状態をいいます。  
02) 額面金額よりも高い金額で取得した場合には減算していきます。



購入時：(借) 満期保有目的債券	95	(貸) 現金	95
1年後：(借) 満期保有目的債券	1	(貸) 有価証券利息	1
(決算時) ⇒ 満期保有目的債券の貸借対照表価額は¥96となる			

各Sectionの終わりにはTry it(確認問題)を掲載しているので、知識の確認、定着にお役立てください。

2級で大切な表示区分も随時、側注に

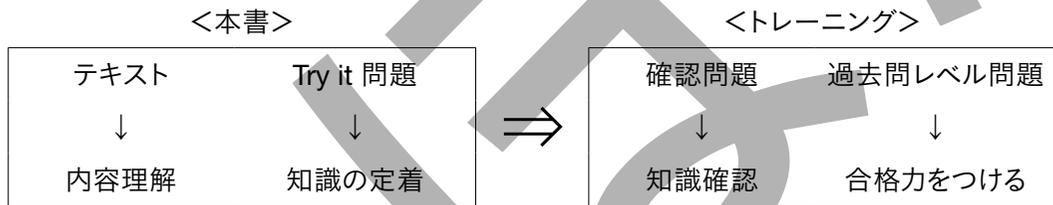
# 本書の使い方

簿記の学習では“1回目のアウトプットはインプットの内”といわれます。

つまり、「テキストで学習した内容は、一度解いてみないと理解にならない」ということを表しています。

したがって、本書では、テキストだけではなくSectionごとにTry itとして練習問題も収載しています。

そして、さらに問題を解いて本試験での合格力をつけていただくために、確認問題から過去問レベル問題まで、しっかりと収載した本書の準拠問題集“とおる”トレーニングの併用をお薦めします。



本書のSectionごとにTry itを解いたらすぐにトレーニングの問題に移って同じSectionの問題を解答し、テキストの内容を確実に修得して、次のSectionに進むことをお薦めします。

# 目次

## Contents

<b>Chapter 0</b>	<b>日商2級合格への扉～簿記の本質～</b>	
Section 1	仕訳と記帳のルール	0-2
Section 2	購入と売却のルール	0-5
Section 3	費用と収益の計上ルール	0-7
Section 4	帳簿の本質	0-9
Section 5	損益計算書と貸借対照表	0-11
<b>Chapter 1</b>	<b>現金預金</b>	
Section 0	これまでの復習	1-2
Section 1	普通預金・定期預金	1-9
<b>Chapter 2</b>	<b>商品売買</b>	
Section 0	これまでの復習	2-2
Section 1	期末商品の評価	2-7
Section 2	売上の計上基準	2-14
Section 3	クレジット売掛金	2-16
Section 4	役務収益・役務原価	2-18
<b>Chapter 3</b>	<b>手形等の取引</b>	
Section 0	これまでの復習	3-2
Section 1	電子記録債権・電子記録債務	3-7
<b>Chapter 4</b>	<b>固定資産</b>	
Section 0	これまでの復習	4-2
Section 1	割賦購入	4-9
Section 2	リース会計	4-11
Section 3	減価償却	4-18
Section 4	固定資産の減失	4-22
Section 5	圧縮記帳	4-25
Section 6	無形固定資産・投資その他の資産	4-28
<b>Chapter 5</b>	<b>有価証券</b>	
Section 0	これまでの復習	5-2
<b>Chapter 6</b>	<b>外貨建取引</b>	
Section 1	外貨建取引	6-2
Section 2	為替予約	6-8

<b>Chapter 7</b>	<b>引当金</b>	
Section 0	これまでの復習	7-2
Section 1	引当金	7-7
<b>Chapter 8</b>	<b>純資産会計</b>	
Section 0	これまでの復習	8-2
Section 1	株式の発行	8-11
Section 2	株主資本等変動計算書	8-14
<b>Chapter 9</b>	<b>税金の処理</b>	
Section 0	これまでの復習	9-2
Section 1	税の分類と費用となる税金	9-4
Section 2	利益にかかる税金	9-7
Section 3	税効果会計	9-12
<b>Chapter 10</b>	<b>決算</b>	
Section 1	決算整理事項と決算整理後残高試算表	10-2
Section 2	帳簿の締切りと財務諸表	10-6
<b>Chapter 11</b>	<b>月次決算</b>	
Section 1	売上原価対立法	11-2
Section 2	減価償却費・引当金	11-4
Section 3	年払い費用の月割計上	11-6
<b>Chapter 12</b>	<b>本支店会計</b>	
Section 0	これまでの復習	12-2
Section 1	本店と支店の帳簿の締切り	12-6
Section 2	合併財務諸表の作成	12-9
<b>Chapter 13</b>	<b>連結会計</b>	
Section 0	これまでの復習	13-2
Section 1	支配獲得後の連結	13-9
Section 2	親会社と子会社の取引	13-17
<b>Chapter 14</b>	<b>製造業会計</b>	
Section 1	製造業を営む会社の決算処理	14-2

# Chapter 0

# 日商2級合格への扉

～簿記の本質～

Section 1	仕訳と記帳のルール
重要度 ◆◆◆	
Section 2	購入と売却のルール
重要度 ◆◆◆	
Section 3	費用と収益の 計上ルール
重要度 ◆◆◆	
Section 4	帳簿の本質
重要度 ◆◆◆	
Section 5	損益計算書と 貸借対照表
重要度 ◆◆◆	

## 2級に合格するには？

「2級に合格するには？」

という問いかけに対する答えは、「簿記の本質を知ること」に他なりません。

これまでの学習の中で“知っていたけどわかっていなかった簿記の本質”  
まず最初に見ておきましょう。



## ◆用語集◆

### 取得原価主義

取得したものの原価は、それに対して支払った金額とするというルール

### 主要簿

すべての取引を漏れなく記帳する帳簿、つまり仕訳帳と総勘定元帳

### 補助簿

特定の取引だけ記帳する帳簿のこと

### 財務諸表

一会計期間における経営活動の成果を株主等の利害関係者に報告するために作成される書類

### 貸借対照表

決算日時点の会社の財政状態（何をいくら持っているのか）を報告するための書類

### 損益計算書

会社の一会計期間における経営成績（何でいくら儲けたのか）を報告するための書類

### 売上高

企業の主な営業活動によって獲得した収益

### 売上原価

売上高に対応する商品の原価

### 販売費及び一般管理費

企業が行う営業活動に関係して発生する費用

### 営業外収益・営業外費用

企業が行う営業活動には直接関係しないが、経常的に発生する収益と費用

### 特別利益・特別損失

臨時的に発生した収益と費用

## 1

## 仕訳と記帳のルール

## はじめに

仕訳は、会社の日々の行為（取引）を定型化して記録するための作業です。仕訳には、誰が行っても同じ結果になるように一定のルールが設けられています。

## 1 仕訳のルール① 左側が借方、右側が貸方

簿記では、左側を借方（かりかた）、右側を貸方（かしかた）といいます<sup>01)</sup>。

左側	右側
借方 かりかた	貸方 かしかた

01) 「貸す」「借りる」という行為とは関係がないと捉えましょう。元々簿記が銀行で使われた関係上、会社とは貸借が逆になっています（銀行での貸付が会社での借入であるため）。

「かりかた」と「かしかた」は「り」と「し」だけの違いです。「り」は左に流れるので左側、「し」は右に流れるので右側と覚えましょう。

## Rule

左側が借方（かりかた）

右側が貸方（かしかた）

## 2 仕訳のルール② ホームポジション側で増加、反対側で減少

簿記では、取引の要素を資産、負債および純資産（＝資産－負債）の3つに分けます。

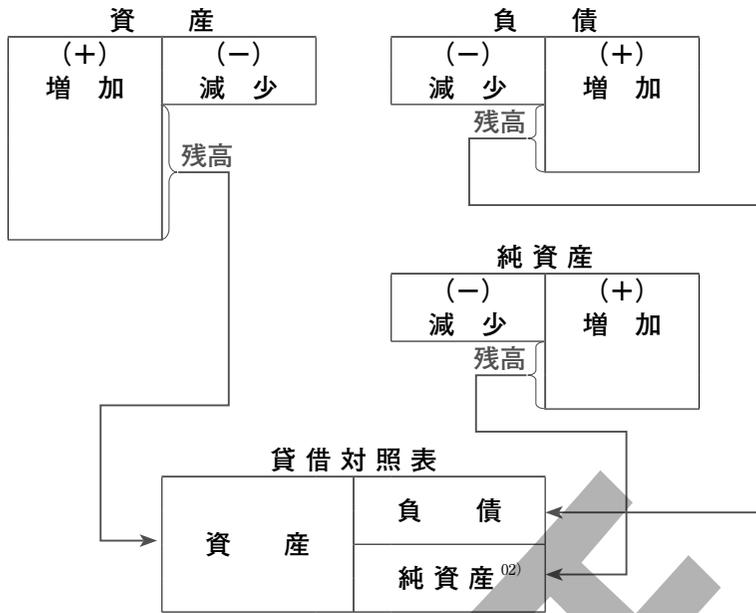
そして、増加したときは、ホームポジション側に記入し、減少したときはホームポジションの反対側に記入します。

## Rule

純資産の増加要因である収益は、純資産のホームポジション側（貸方）に記入します。

純資産の減少要因である費用は、純資産のホームポジションの反対側（借方）に記入します。

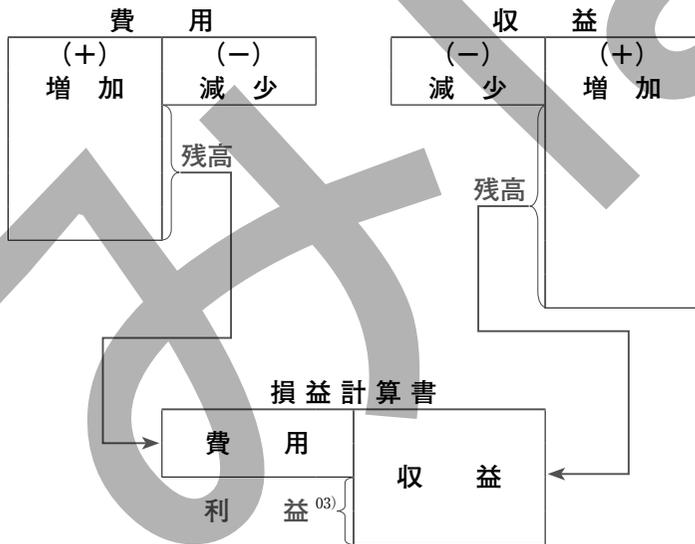
(1)資産・負債・純資産の増減



そして、純資産の増加要因を収益、減少要因を費用といい、「収益>費用」の場合、収益と費用の差額が利益となります。

02) これまでは、「資本=純資産」でしたが、2級では資本ではない純資産も登場するので、ここからは「純資産」と表記します。

(2)費用・収益の増減



03) 「収益<費用」の場合、収益と費用の差額が損失となります。

Rule

結果として、次のようになります。

資産・費用……………増加したときは借方、減少したときは貸方に記入する。

負債・純資産・収益…増加したときは貸方、減少したときは借方に記入する。



# Chapter 1

# 現金預金

## Section 0 これまでの復習

重要度 ◆◆◆◇

## Section 1 普通預金・定期預金

重要度 ◆◆◆◇

●このChapterで学習する主な科目を集めた財務諸表

I 流動資産		I 流動負債	
現金預金	100,000	未払金	30,000
II 固定資産			
3 投資その他の資産			
長期定期預金	80,000		

## ◆用語集◆

### 現金

一般には貨幣・硬貨を指すが帳簿上は「支払いに充てたときに相手が納得するもの」であり小切手などの通貨代用証券も含む

### 通貨代用証券

小切手のようにすぐに換金できて、通貨の代わりになる証券

### 銀行勘定調整表

決算日における企業の当座預金残高と、銀行残高証明書の残高との不一致の原因を明らかにする表。両者区分調整法、企業残高基準法、銀行残高基準法の3つがある。

### 残高証明書

銀行などの金融機関が発行する企業の当座預金残高を証明した文書

### 両者区分調整法

企業側の当座預金勘定の残高と、銀行側の銀行残高証明書の残高のそれぞれについて不一致原因を加減して、適正な当座預金残高を求める方法

### 企業残高基準法

企業の当座預金帳簿残高を基準として不一致原因を加減して、銀行残高証明書の残高に一致させる方法

### 銀行残高基準法

銀行残高証明書の残高を基準として不一致原因を加減して、企業の当座預金帳簿残高に一致させる方法

### 未取立小切手

銀行に持ち込んだ他人振出小切手のうち、取立てが完了していないもの

### 未取付小切手

取引先に振り出した小切手のうち、取引先がその小切手を銀行に持ち込んでいないもの

### 未渡小切手

当社が小切手を作成したにもかかわらず、先方に渡していないもの

# これまでの復習

## はじめに

簿記上の現金とは、いったい何でしょうか？

簿記上、現金は「即時的な支払手段となり得るもの」と定義され、たとえば、私がみなさんから借りていた1万円を返したときに、みなさんが「返ってきたな」と納得できるものですから紙幣、硬貨の他に小切手など、金融機関に持ち込めばすぐに換金できるものも含まれることになります。

### 1 簿記上の現金

簿記で用いる現金勘定〔流動資産〕には、通貨の他に通貨代用証券が含まれます。通貨代用証券には主に次のものがあります。

現金勘定で  
処理されるもの<sup>01)</sup>

通貨（紙幣、硬貨）

つうかだいようしょうけん  
通貨代用証券

他人振出しの小切手  
普通為替証書、小為替  
株式配当金領収証  
送金小切手など

- 01) 現金とまちがえやすいもの。
- ・収入印紙  
⇒租税公課で処理
  - ・切手  
⇒通信費で処理
  - ・自己振出の回収小切手  
⇒当座預金の増加で処理  
小切手を振り出したときに  
(〇〇〇) × × ×  
(当座預金) × × ×  
と処理しており、  
その回収は当座預金の  
減少の取消となる。  
(当座預金) × × ×  
(〇〇〇) × × ×

### 2 現金決済のリスクと小切手の活用

みなさんが私に商品1,000万円を売ったとしましょう。

いざ、代金の決済のとき、代金の1,000万円はみなさんが受け取りに来るでしょうか。私が支払いに行くのでしょうか？

答えは、みなさんが取りに来るのです。コンビニで商品を買っても、「ありがとうございました。」と言われるように、商売は通常、買い手側の立場が強いので、売り手が取りに行きます。

このときに現金で回収すると、どうなるでしょうか。

1,000万円を受け取ったみなさんは、自分の会社に戻るまでの間に盗難に遭う可能性もあります。また逆に代金を支払う私としても、前日には金庫に1,000万円を用意しておく必要があり、これも盗難に遭う可能性があります。

そこで私は取引銀行に当座預金口座を作り、そこに1,000万円を入金するとともに小切手帳を受け取ります<sup>02)</sup>。

そうして、みなさんが集金に来たときには1,000万円と記入した小切手をあらかじめ用意して（振り出して）おき<sup>03)</sup>、それを渡すのです。

- 02) 実際には50枚綴りのものを200円程で購入します。
- 03) 用意した時点で当座預金の減少の仕訳をします。

AH 1	<b>BANK</b>	小 切 手	東京 1301 0701-007
×0年7月10日		支払地 東京都千代田区飯田橋4丁目1番1号	
金額 ¥10,000,000		株式会社 東西銀行飯田橋支店	
渡し先 B 商会		金額 ¥10,000,000★ 見 本	
摘要 買掛代金 支払い	(印)	上記の金額をこの小切手と引き替えに 持参人へお支払いください 拒絶証書不要	
		振出日 ×0年7月10日	
		振出地 東京都千代田区 振出人 ネットスクール商会 (印)	
		⑈011213010701007⑈ 0100291 ⑈00001	

小切手の控え

小切手

これで現金の持ち運びをしなくてもよくなるのですが、もしも盗難に遭ったとき、泥棒に換金されてしまう危険性があります。

そこで小切手の左肩に二重線を引き、「BANK」とか「銀行渡り」と書くのです（これを線引小切手といいます）。

こうすることで銀行間の取引でしか換金できないことになり、泥棒が換金しようにも入金先がバレてつかまってしまうため、換金できないようになっているのです。

実際に流通している小切手のほとんどは、この線引小切手であり、それを受け取ったみなさんは、必然的に自分の取引先の銀行に持ち込み、換金を依頼し、その代金はみなさんの銀行口座に入金されることになるのです<sup>04)</sup>。

04) このとき、実際には入金までに営業日で中3日程かかります。

#### 例 O-1

現金勘定の3月の月初残高は¥10,000であった。次の3月中の取引にもとづき現金勘定の月末残高を計算する。

- (1) コピー用紙の現金購入 ¥3,000（消耗品費）
- (2) 商品の販売による得意先振出しの小切手の受取り ¥14,000（商品の記帳は三分法）
- (3) A社の株式配当金領収証の受取り ¥2,000
- (4) 売掛金の回収として普通為替証書の受取り ¥1,000

(1) コピー用紙の現金購入

(借) 消耗品費 3,000 (貸) 現 金 3,000

(2) 商品の販売

(借) 現 金 14,000 (貸) 売 上 14,000

(3) 株式配当金領収証の受取り

(借) 現 金 2,000 (貸) 受取配当金 2,000

(4) 普通為替証書の受取り

(借) 現 金 1,000 (貸) 売 掛 金 1,000

3月末残高：¥10,000 - ¥3,000 + ¥14,000 + ¥2,000 + ¥1,000  
= ¥24,000

### 3 現金過不足の処理

現金過不足の処理は、(1)現金過不足が発生したとき、(2)現金過不足の原因がわかったとき、(3)決算のとき、の3つの場面があります。

**Point** 簿記のルール

帳簿残高が実際残高と異なった場合、絶対に実際残高に合わせる  
(実際=事実のため)

(1)過不足発生  (2)原因判明 (一部)  (3)決算	↓	実際残高が帳簿残高より少なかった場面を想定
		(借) 現金過不足    ×××    (貸) 現金    ×××
		(借) (〇〇〇)    ××    (貸) 現金過不足    ××
↓		原因が不明なものは『雑損(雑損失)』または『雑益(雑収入)』勘定に振り替える <sup>05)</sup> 。
↓		(借) 雑    損    ×    (貸) 現金過不足    ×

05) 雑損と雑費は異なります。雑損は内容が不明なもので損益計算書上、営業外費用の区分に表示されますし、雑費は茶菓代など内容がわかっていて詳細を省略するさいに用いる科目で販売費及び一般管理費の区分に表示されます。

現金過不足は、期中に一時的に用いられる科目で、損益計算書や貸借対照表に記載されることはありませんので、決算の処理で必ず0になります<sup>06)</sup>。

06) 株主が簿記を知っているわけではないので、記載しても意味が通じません。

### 4 決算日に現金過不足が発生した場合

決算日に現金過不足が判明した場合、現金過不足勘定に振り替えず、直接に『雑益』〔営外収益〕または『雑損』〔営外費用〕に振り替えます。

**例 0-2**

決算日において、現金の実際有高が帳簿残高に対して¥4,000 超過していることが判明した。そのうち、¥3,000 は手数料を現金で受け取った取引が未記帳であることが判明し、残りについて原因は判明しなかった。

(借) 現金	4,000	(貸) 受取手数料	3,000
		雑    益 <sup>07)</sup>	1,000

07) 決算日に判明した現金過不足については、現金過不足勘定を使わないことに注意してください。

## 5 銀行勘定調整表

決算日における企業の当座預金勘定残高と、銀行残高証明書の残高との不一致の原因を明らかにする表を、銀行勘定調整表といいます。

銀行勘定調整表の作成方法には、両者区分調整法、企業残高基準法、銀行残高基準法の3つがあります。

ただし、企業残高基準法・銀行残高基準法ともに、いったん両者区分調整法で両者の残高の一致を確認したうえで各項目を移動させて作成するのが確実な作成方法です。

## 6 両者区分調整法

両者区分調整法とは、企業側の当座預金勘定の残高と、銀行側の銀行残高証明書の残高のそれぞれについて不一致原因を加減して、適正な当座預金残高を求める方法です。この方法で求めた金額が貸借対照表上の当座預金の金額になります<sup>08)</sup>。

この方法では、企業側の当座預金勘定の残高と、銀行側の銀行残高証明書の残高のどちらの調整を行うかを判断することが重要になります。

08) 貸借対照表上の金額が算定できるため、最も重要な方法です。

企業外部の事情に起因するもの	→ 未達側の調整	
(1) 時間外預入	銀行の残高証明書の残高+	仕訳不要
(2) 未取立小切手	銀行の残高証明書の残高+	
(3) 未取付小切手	銀行の残高証明書の残高-	
(4) 連絡未通知	企業の当座預金勘定の残高+/-	
企業内部の事情に起因するもの	→ 企業側（当座預金勘定）を調整	
(5) 未渡小切手	企業の当座預金勘定の残高+	仕訳必要
(6) 誤記入	企業の当座預金勘定の残高+/-	

- (1) 時間外預入：銀行の営業時間終了後に入金すること
- (2) 未取立小切手：受け取った後に、銀行に持ち込んだ他人振出しの小切手のうち、取立が完了していないもの
- (3) 未取付小切手：取引先に振り出した小切手のうち、取引先がその小切手を銀行に持ち込んでいないため、銀行ではその支払いが完了していないもの
- (4) 連絡未通知：銀行において、当座振込・自動引落等の当座取引があったにもかかわらず、その連絡が当社に未達であるもの
- (5) 未渡小切手：当社が小切手を作成した（振り出した）にもかかわらず、まだ取引先が取りに来ていないといった事情により、相手に渡していないもの

**例 0-3**

銀行勘定調整表を両者区分調整法で作成しなさい。なお、当社の当座預金勘定の帳簿残高は¥6,900、銀行残高証明書残高は¥6,450であった。

- ①夜間に現金 ¥100 を預け入れたが、銀行の営業時間外のため、銀行では翌日付だけで処理がされた。
- ②得意先から受け入れた小切手 ¥200 の取立てを銀行に依頼したが、銀行はまだ取り立てていない。
- ③仕入先に対して買掛金支払いのために振り出した小切手 ¥350 が、いまだ銀行に呈示されていない。
- ④光熱費 ¥400 の引落しが、当社に連絡未達のため未記帳になっていた。
- ⑤広告宣伝費支払いのために振り出した小切手 ¥500 が、金庫に保管されたままであった。
- ⑥仕入先に対する小切手の振出し ¥700 を ¥100 として処理していた。

銀行勘定調整表<sup>09)</sup> (単位:円)

当座預金の帳簿残高	6,900	銀行の残高証明書残高	6,450
(加算)		(加算)	
⑤未渡小切手	500	①時間外預入	100
	500	②未取立小切手	200
			300
(減算)		(減算)	
④引落連絡未通知	400	③未取付小切手	350
⑥誤記入	600		350
	1,000		
	6,400 <sup>10)</sup>		6,400 <sup>10)</sup>

(ア) B/S 当座預金

(ア) 両者区分調整法の修正後残高は、当座預金の帳簿残高と銀行の残高証明書残高が必ず一致し、それが貸借対照表の当座預金の金額となります。

(イ) 当座預金の帳簿残高の加減算項目にのみ修正仕訳が必要です<sup>11)</sup>。

④ (借) 水道光熱費 400 (貸) 当座預金 400

⑤ (借) 当座預金 500 (貸) 未払金 500

⑥ (借) 買掛金 600 (貸) 当座預金 600

09) 銀行勘定調整表は外部公表用のものではないので、左右や一定の範囲内での各項目名が変わっても OK です。

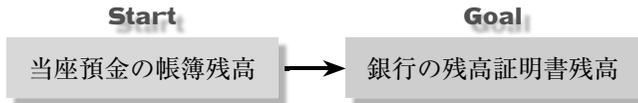
10) 銀行勘定調整表の修正後残高は必ず一致します。決算日における修正後残高が、貸借対照表の当座預金の金額となります。

11) ④、⑤、⑥に必要です。なお、銀行側の加減算項目(①、②、③)に仕訳は必要ありません。

## 7 企業残高基準法

企業残高基準法とは、企業の当座預金帳簿残高を基準として不一致原因を加減して、銀行残高証明書残高に一致させる形式で作成する方法です<sup>12)</sup>。

12) この方法では、適正な当座預金の金額は算定できません。



具体的には、次のように、両者区分調整法の銀行勘定調整表に記入された矢印に従い、作成します。

Start	当座預金の帳簿残高	6,900	銀行の残高証明書残高	6,450	Goal
(加算)			(加算)		
	⑤未渡小切手 (+)	500	①時間外預入 (-)	100	
			②未取立小切手 (-)	200	300 ←
(減算)			(減算)		
	④引落連絡未通知	400	③未取付小切手 (+)	350	350 ←
	⑥誤記入 (-)	600			
		1,000			
		<u>6,400</u>			
				<u>6,400</u>	

銀行側のプラスとマイナスを逆にする

$$\text{Start } \underbrace{\text{¥6,900}}_{\text{帳簿残高}} + \underbrace{\text{¥500}}_{\text{⑤}} - (\underbrace{\text{¥400}}_{\text{④}} + \underbrace{\text{¥600}}_{\text{⑥}}) = \underbrace{\text{¥6,400}}_{\text{修正残高}}$$

$$\text{Goal } \underbrace{\text{¥6,400}}_{\text{修正残高}} + \underbrace{\text{¥350}}_{\text{③}} - (\underbrace{\text{¥100}}_{\text{①}} + \underbrace{\text{¥200}}_{\text{②}}) = \underbrace{\text{¥6,450}}_{\text{銀行残高}}$$

なお、不一致原因③はマイナスするのではなく、プラスすることになります。また、不一致原因①、②はプラスするのではなく、マイナスすることに注意してください<sup>13)</sup>。

13) 両者区分調整法のプラス、マイナスとは逆になります。

Start	当座預金の帳簿残高	6,900	
(加算)			
	⑤未渡小切手	500	
	③未取付小切手	350	850
(減算)			
	④引落連絡未通知	400	
	⑥誤記入	600	
	①時間外預入	100	
	②未取立小切手	200	1,300
Goal	銀行の残高証明書残高		<u>6,450</u>



# 普通預金・定期預金

## はじめに

近年、小切手の使用割合が急激に下がってきています。

これは、小切手を振り出して集金に来る人を待つよりも口座振込で支払った方がお互いに経済的なためです。

「小切手を使わないなら当座預金は要らない」のは当然ですから、今では当座預金口座を持つ会社が少なくなってきています。

## 1 普通預金

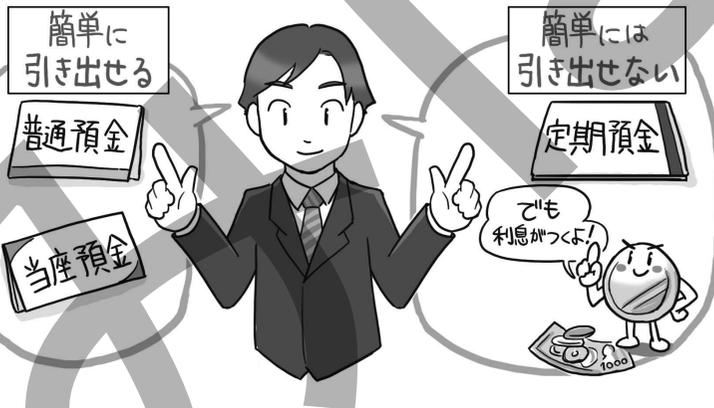
普通預金とは、いつでも引出しができる通常の銀行口座で、代金の決済にも用いられています。

### 例 1-1

買掛金 ¥10,000 の支払いのため、先方負担の手数料 ¥300 を差し引いて、当社の普通預金口座から先方の普通預金口座へと振り込んだ。<sup>01)</sup>

(借) 買 掛 金 10,000 (貸) 普 通 預 金 10,000<sup>02)</sup>

- 01) 振込手数料はビジネス上、販売側が負担することが多いようです。  
販売側  
(借) 普通預金 9,700  
支払手数料 300  
(貸) 売掛金 10,000
- 02) 先方の口座への ¥9,700 の振込み、銀行への手数料 ¥300 の支払いにより、購入側は結局 ¥10,000 を支払っています。



## 2 定期預金

定期預金とは、原則として満期日<sup>03)</sup>まで引出すことができない預金で、拘束性<sup>こうそくせい</sup>がある分、普通預金よりも金利が高いことから、余剰資金<sup>よじょうしきん</sup>を運用することがあります。

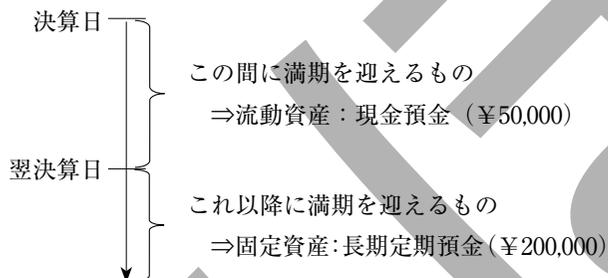
### 例 1-2

4月1日、普通預金の残高¥600,000のうち、¥200,000を3年満期の定期預金に、¥50,000を2年満期の定期預金に預け替えた。

(借) 定期預金 250,000 (貸) 普通預金 250,000

定期預金は、正常な営業循環外のもの<sup>04)</sup>なので、1年基準が適用されます。したがって、貸借対照表上、決算日の翌日から1年以内<sup>05)</sup>に満期となるものは流動資産の『現金預金<sup>06)</sup>』に、1年を超えて満期となるものは、固定資産に『長期定期預金<sup>07)</sup>』として表示します。

#### Point



### 例 1-3

3月31日、決算となり例 1-2 の定期預金を貸借対照表に表示する。なお、決算日の現金の残高は¥2,000、普通預金の残高は¥500,000、当座預金の残高は¥6,400<sup>08)</sup>であった。

#### 貸借対照表 ×年3月31日

I 流動資産	
現金預金	558,400
II 固定資産	
長期定期預金	200,000

現金預金：¥2,000 + ¥500,000 + ¥6,400 + ¥50,000 = ¥558,400

03) 3カ月、6カ月といった短期のものから、3年5年といった長期のものまでさまざまな定期預金があります。

04) 代金の支払いに充てるためのものではない。

05) 3月31日決算の場合、その翌日(4月1日)から1年。つまり、次の3月31日の決算日まで。

06) 貸借対照表上は現金と区別する理由が乏しいことから『現金預金』として現金と含めて表示します。

07) 『長期性預金』とすることもあります。

08) P1-6 例 0-3 の当座預金の数字を用いました。当座預金はこのように表示されます。



## 現金預金

以下の資料にもとづき、当期の貸借対照表および損益計算書を作成しなさい。当期は、×7年4月1日から×8年3月31日までの1年である。

[資料1] 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表 (単位: 円)					
現	金	100,000	買	掛	金
当	座	預	受	取	利
普	通	預	受	取	息
定	期	預	受	取	息
金	金	金	取	取	息
		568,000			100
		200,000			
		1,500,000			

[資料2] 決算整理事項

1. 当座預金について帳簿残高と銀行からの残高証明書を照合したところ、以下の原因により両者が一致しなかった。
  - (1) 未渡小切手: ¥50,000 (買掛金にかかるもの)
  - (2) 未取付小切手: ¥80,000 (買掛金にかかるもの)
  - (3) 買掛金の小切手振出額 ¥75,000 について、誤って ¥57,000 と記帳していた。

2. 定期預金の内訳は、次のとおりである。

残高	預入れ日	満期日	利率	備考
¥500,000	×7年6月1日	×8年5月31日	年0.24%	(1)
¥1,000,000	×7年12月1日	×9年11月30日	年0.36%	(2)

- (1) 利息は満期日に支払われる。決算にあたり、利息の未収分を計上する。
- (2) 利息は毎年11月30日に支払われる。決算にあたり、利息の未収分を計上する。
- (3) 普通預金の利息は適正に処理されている。

### 貸借対照表

I	流動資産	
	現金預金 ( )	
	未収収益 ( )	
II	固定資産	
3	投資その他の資産	
	長期定期預金 ( )	
I	流動負債	
	買掛金 ( )	

### 損益計算書

IV	営業外収益	
	受取利息 ( )	



貸借対照表

損益計算書

<p>I 流動資産</p> <p>現金預金 (1,400,000) ㊵</p> <p>未収収益 ( 2,200) ㊵</p> <p>II 固定資産</p> <p>3 投資その他の資産</p> <p>長期定期預金 (1,000,000) ㊵</p> <p>I 流動負債</p> <p>買掛金 (132,000) ㊵</p>	<p>IV 営業外収益</p> <p>受取利息 ( 2,300) ㊵</p>
--	--

合計 100点

解説

1. 当座預金

(借) 当座預金	50,000	(貸) 買掛金	50,000
(借) 買掛金	18,000 *1	(貸) 当座預金	18,000

\* 1  $¥75,000 - ¥57,000 = ¥18,000$

修正後当座預金： $¥568,000 + ¥50,000 - ¥18,000 = ¥600,000$

2. 長期定期預金への振替え

¥1,000,000については翌々期以降に満期日が到来するため、長期定期預金に振り替えます。

(借) 長期定期預金	1,000,000	(貸) 定期預金	1,000,000
------------	-----------	----------	-----------

現金、預金および翌期中に満期日が到来する定期預金については、流動資産に現金預金として表示します。

現金預金： $¥100,000 + ¥600,000 + ¥200,000 + ¥500,000 = ¥1,400,000$

3. 利息の未収計上

預入れ日から決算日までの利息を未収計上します。

(借) 未収収益	2,200	(貸) 受取利息	2,200 *2
----------	-------	----------	----------

\* 2  $¥500,000 \times 0.24\% \times \frac{10 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}} + ¥1,000,000 \times 0.36\% \times \frac{4 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}} = ¥2,200$

受取利息： $¥100 + ¥2,200 = ¥2,300$